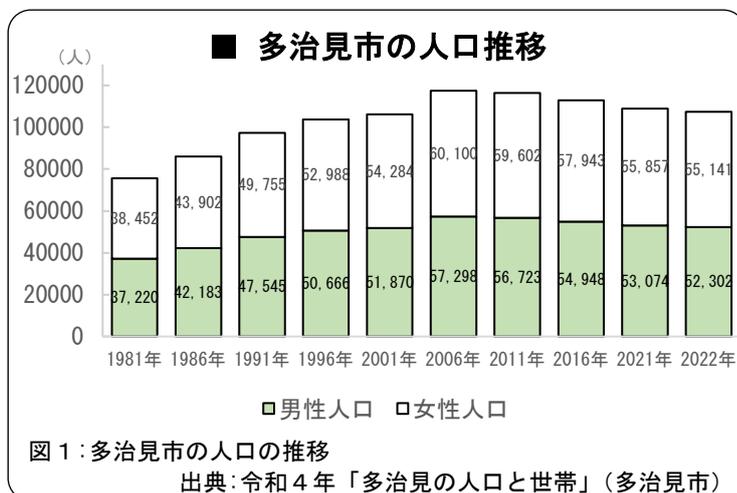


第2章 多治見市の現状

1 人口構成

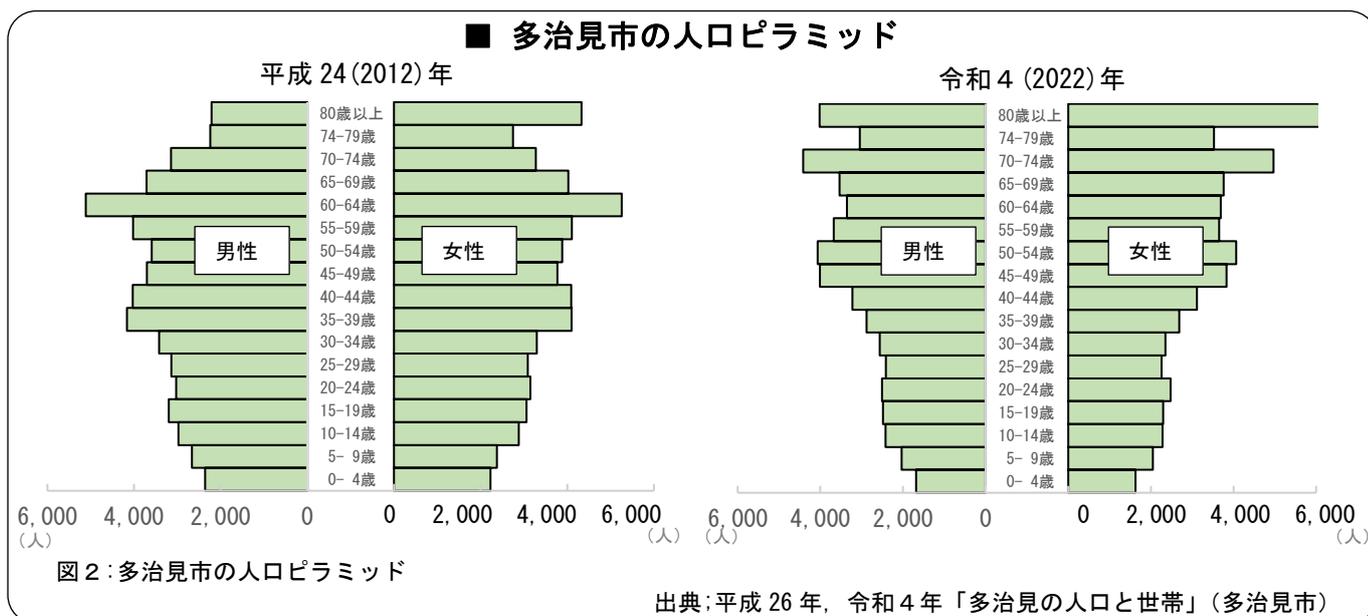
(1) 多治見市の人口

多治見市の人口は2011年から減少基調が続いており、令和4(2022)年4月56,723人、女性59,602人の計116,325人であったのが、令和4(2022)年4月に52,302人、女性55,141人の計107,443人で11万人を下回っています。(図1)



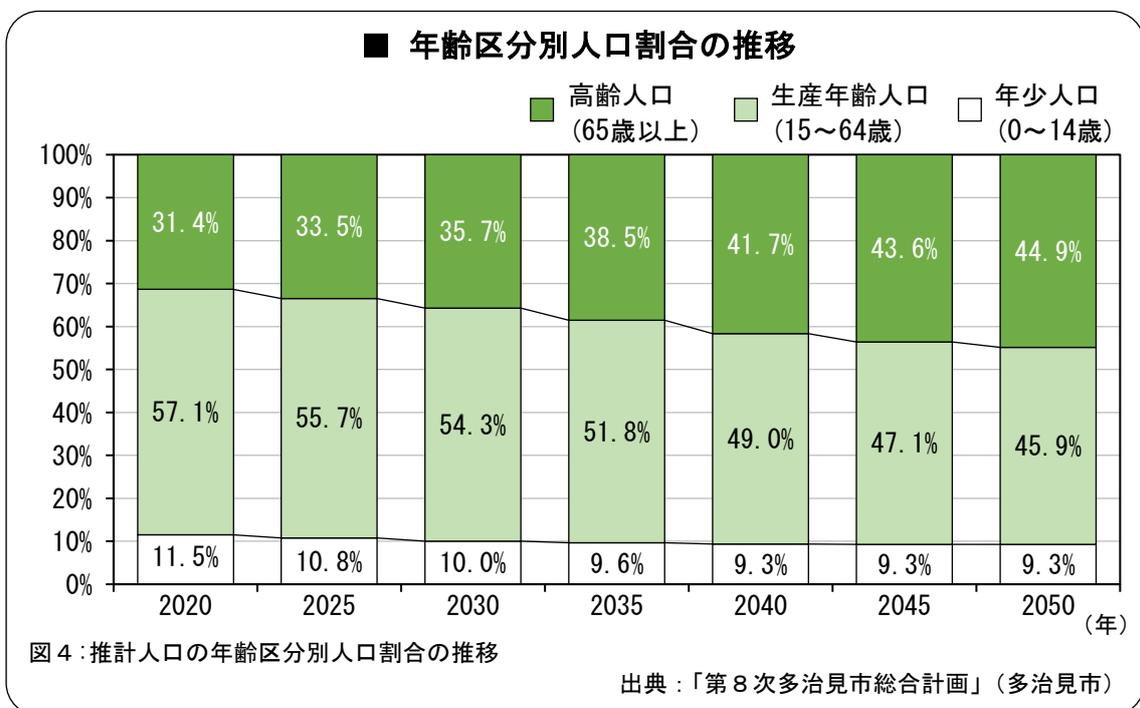
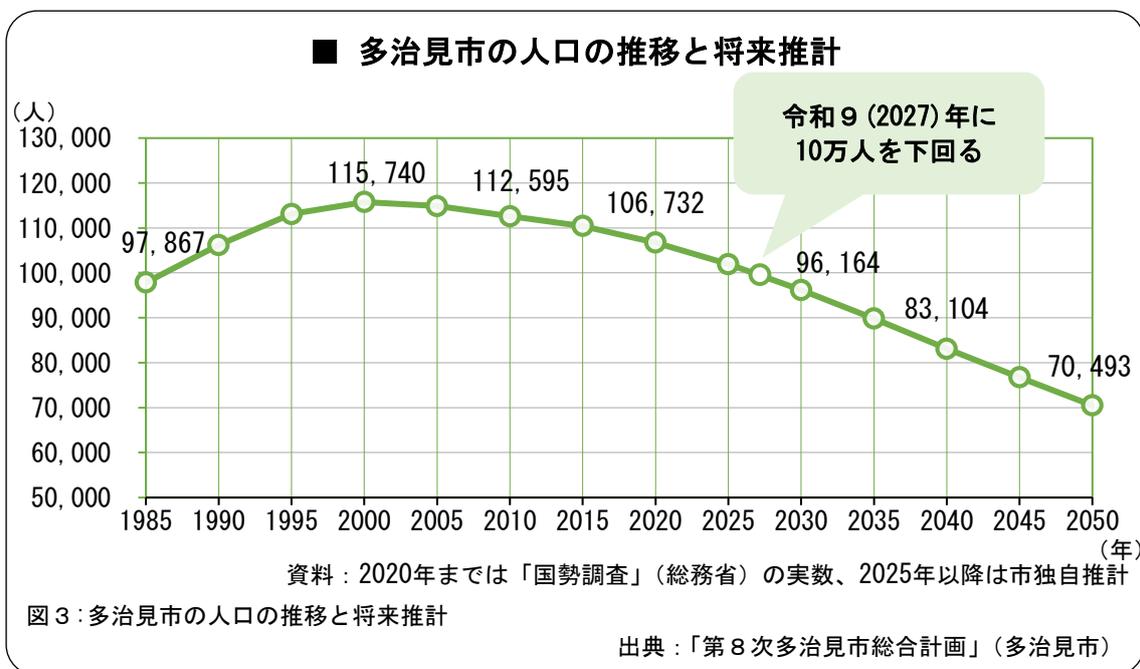
(2) 多治見市の人口ピラミッドの推移

10年前と現在のいずれもつぼ型ですが、現在は0~39歳が減少し、団塊の世代を含む74歳以上が増加した、高齢部分の人口が多い広口のつぼ型の形を示しています。これは出生数の減少によって自然増加がマイナスになり、将来人口の減少が予想される型です。(図2)



(3) 年齢区分別人口の推移と推計

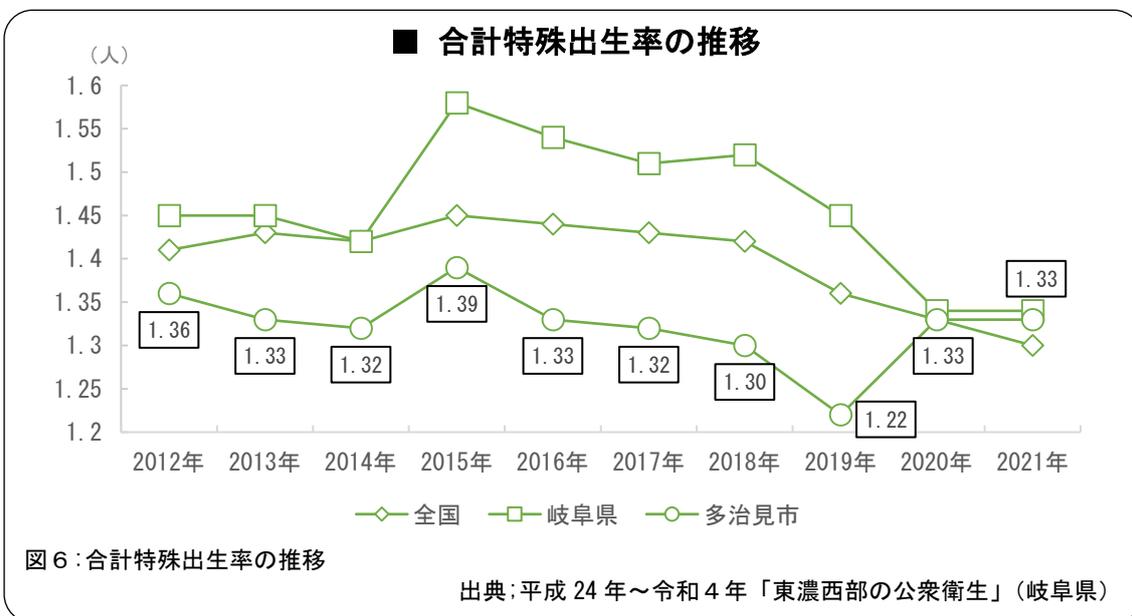
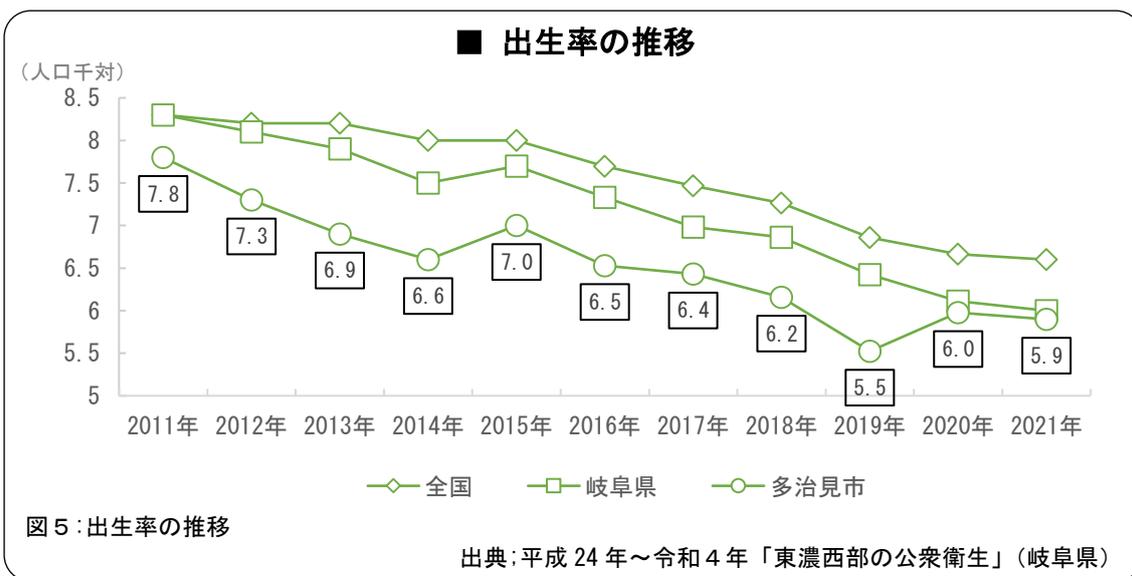
多治見市の人口は、減少傾向が続く見込みであり、令和9（2027）年に10万人を下回ると予想されています。（図3）年齢区分別で比較すると、高齢人口は今後さらに増加し、高齢化率は令和22（2040）年には41.7%になることが予測されています。（図4）



2 出生状況

多治見市の出生率は、全国や県と同様、年々減少しています。(図5)

合計特殊出生率は横ばい傾向で、人口維持のためには2.07程度の数値が必要と言われており、今後の人口減少が予想されます。(図6)



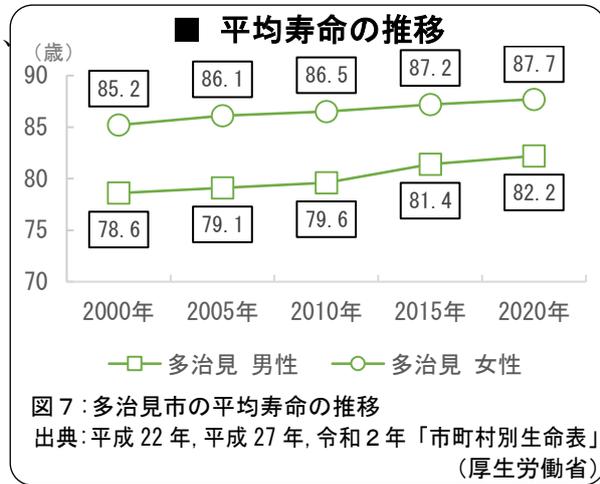
3 平均寿命と健康寿命の現状

(1) 平均寿命の推移

多治見市の平均寿命は、延伸傾向にあり、この10年で男性は2.6歳、女性は1.2歳延びました。(図7)

これは全国や岐阜県を上回る結果です。

(表8)



平均寿命の全国及び岐阜県との比較

	男 性			女 性		
	2010年	2015年	2020年	2010年	2015年	2020年
全国	79.6歳	80.8歳	81.5歳	86.4歳	87.0歳	87.6歳
岐阜県	79.9歳	81.0歳	81.9歳	86.3歳	86.8歳	87.5歳
多治見市	79.6歳	81.4歳	82.2歳	86.5歳	87.2歳	87.7歳

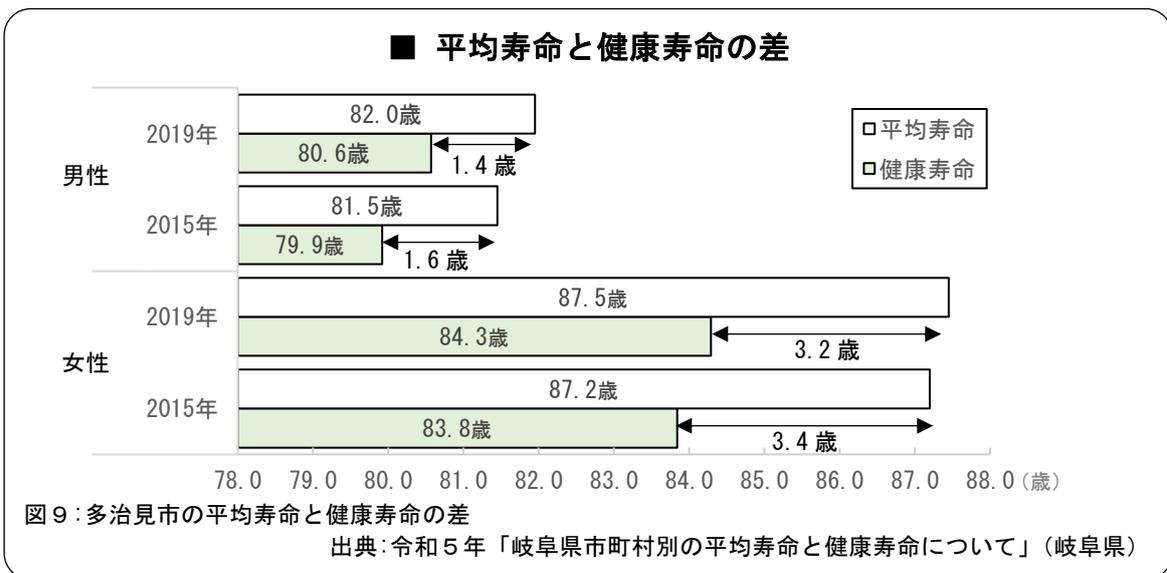
表8：市町村別生命表からみた平均寿命の比較

出典：平成22年、平成27年、令和2年「市町村別生命表」(厚生労働省)

(2) 健康寿命

健康寿命をここでは要介護度2以上になるまでの期間と定義し算出しています。

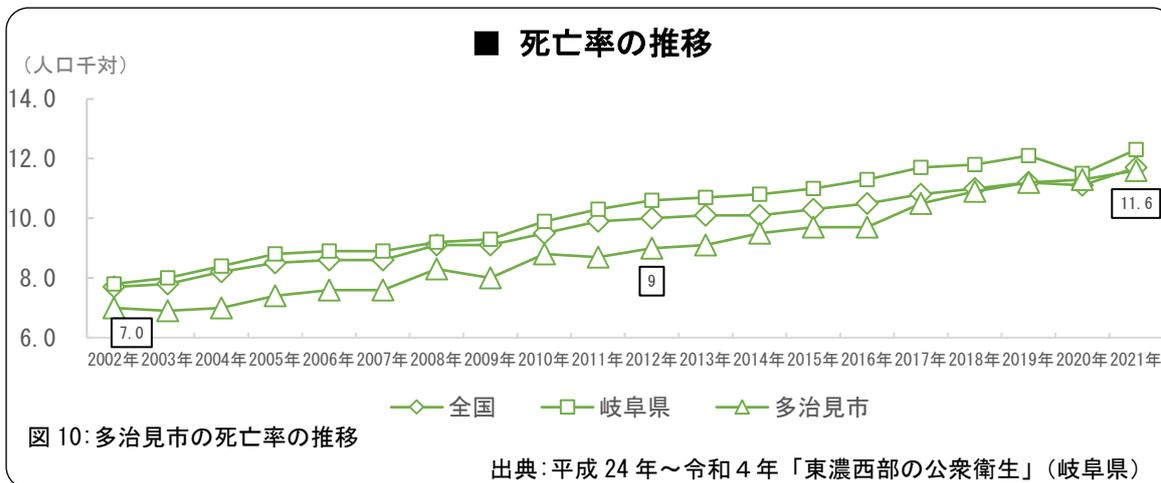
2015年と比較し、男女ともに0.2歳ずつ「不健康な期間」が縮小しています。(図9)



4 死亡率や死因内訳の現状

(1) 死亡率の推移

多治見市の死亡率は、高齢化もあり増加傾向です。これまで全国や岐阜県を下回っていましたが、現在は同等の結果となっています。(図 10)

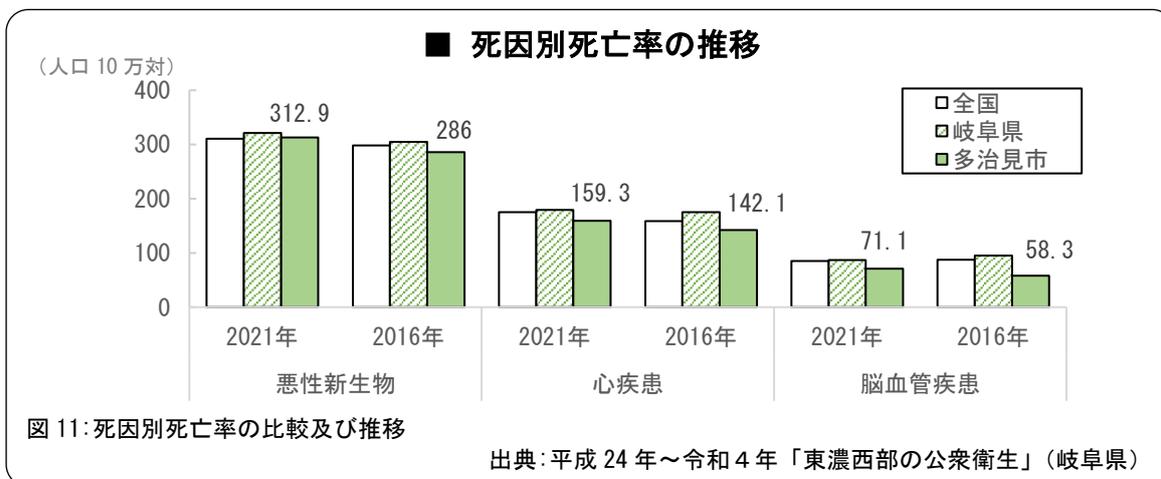


(2) 死因別死亡率の推移

死因別で死亡率を 2016 年と比較すると、悪性新生物は増加しており、全国と比較しても高い結果でした。心疾患や脳血管疾患も増加したものの、全国や岐阜県を下回る結果でした。(図 11)

令和 3 (2021) 年の死因別死亡割合は悪性新生物、心疾患、老衰の順で高い結果でした。(図 12)

死因別年齢調整死亡率(人口 10 万対)は、ほとんどの死因が減少傾向でした。しかし、男性の脳血管疾患死亡率は増加しました。(表 13)



■ 令和3(2021)年度死因別内訳

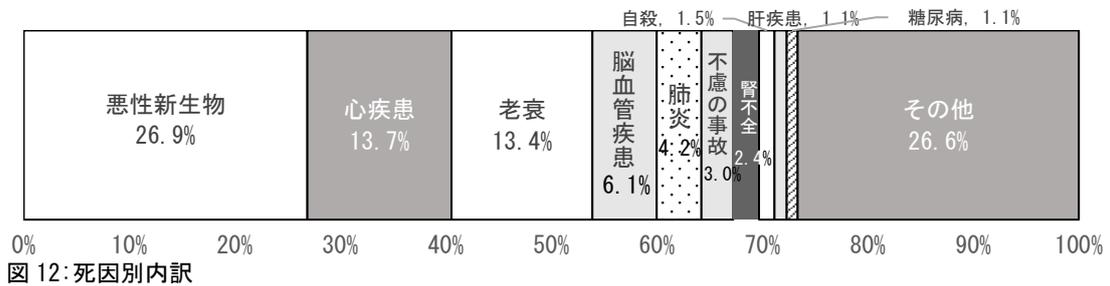


図 12: 死因別内訳

出典: 令和4年「東濃西部の公衆衛生」(岐阜県)

■ 死因別の年齢調整死亡率

		2015年	2020年
がん死亡率※1		122.9	112.7
心疾患死亡率※2	男性	180.4	155.8
	女性	120.3	108.9
脳血管疾患死亡率※2	男性	77.7	90.4
	女性	53.9	50.8

※1 昭和60年モデル人口を利用した年齢調整を実施

※2 平成27年モデル人口を利用した年齢調整を実施

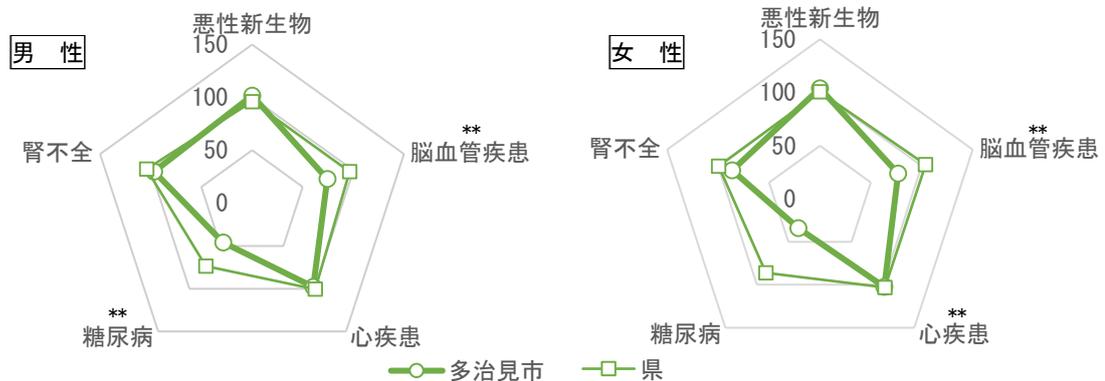
表 13: 死因別年齢調整死亡率

出典: 平成23年～令和3年「東濃西部の公衆衛生」(岐阜県)

(3) 標準化死亡比 (SMR) の特徴

標準化死亡比は、脳血管疾患での死亡が、国と比較し、男女ともに有意に低い結果となりました。糖尿病での死亡も国と比較して男女ともに低く、特に男性は有意に低い結果でした。悪性新生物や女性の心疾患は国と比較して高い結果でした。(図 14)

■ 男女別標準化死亡比 (平成27～令和元年)



※P 値…データ間の差について、統計的に処理し明らかに差がある場合、項目の上部に* $P < 0.05$ (5%の有意水準)、** $P < 0.01$ (1%の有意水準) と表示

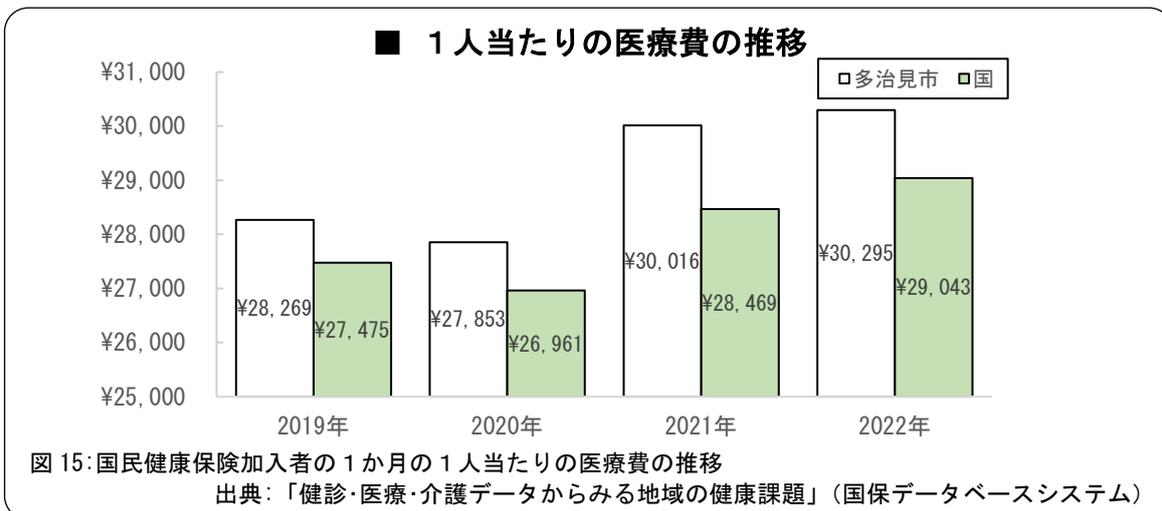
図 14: 死因別年齢調整死亡率

出典: 令和4年「岐阜県の生活習慣病白書 2021」(岐阜県)

5 国民健康保険加入者からみる現状

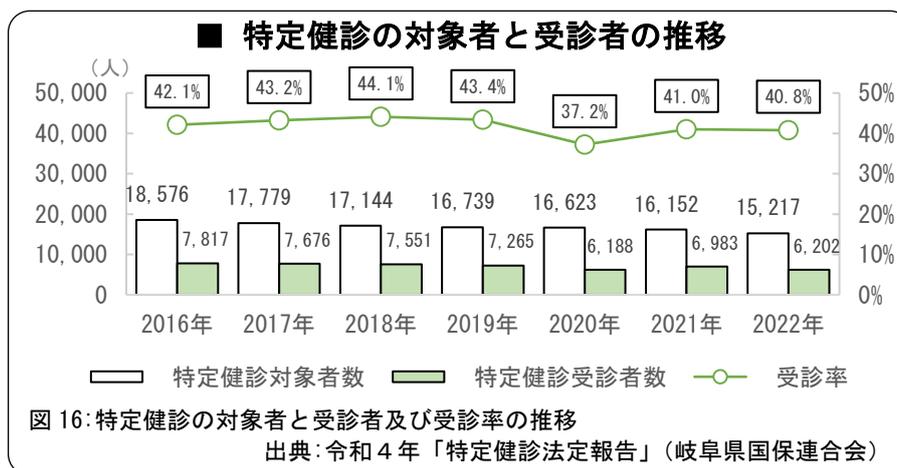
(1) 国民健康保険の被保険者の年齢構成及び医療費

多治見市における国民健康保険加入者の1か月の1人当たりの医療費は、年々増加しています。また、国と比較し、多治見市は高い傾向にあります。(図15)



(2) 特定健診の対象者と受診者の推移

特定健診対象者は年々減少傾向にある中で、受診率は令和2(2020)年に新型コロナウイルス感染症の流行で落ち込んだものの、その後は回復し令和4(2022)年は40.8%と横ばいでした。(図16)



6 介護保険からみる現状と将来

(1) 要支援・要介護認定者の状況

第1号被保険者（65歳以上）の認定者と認定率は横ばい傾向ですが、高齢化に伴い今後は年々増加し、2030年は約2割になると予想されています。（図17）

なお、第2号被保険者（64歳以下）の介護認定状況は、この5年、横ばいでした。（図18）

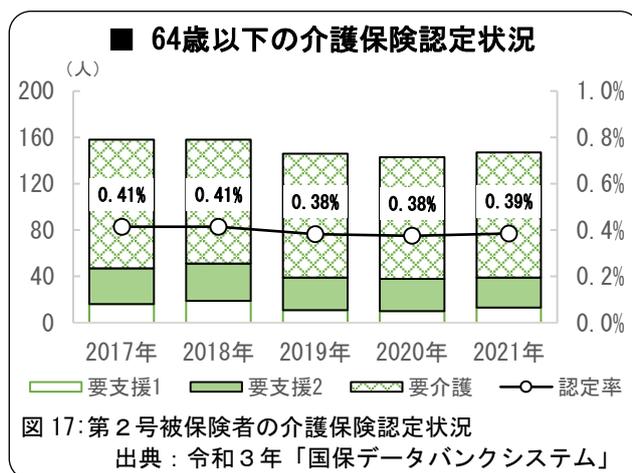


図17: 第2号被保険者の介護保険認定状況

出典：令和3年「国保データバンクシステム」

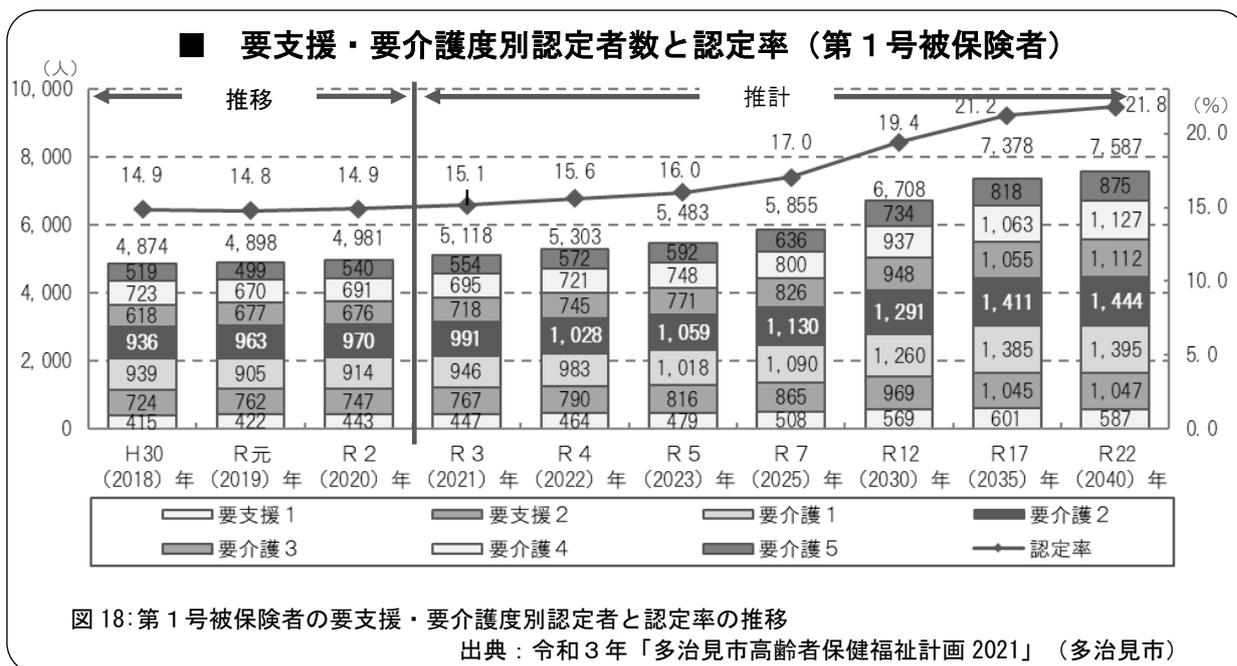


図18: 第1号被保険者の要支援・要介護度別認定者と認定率の推移

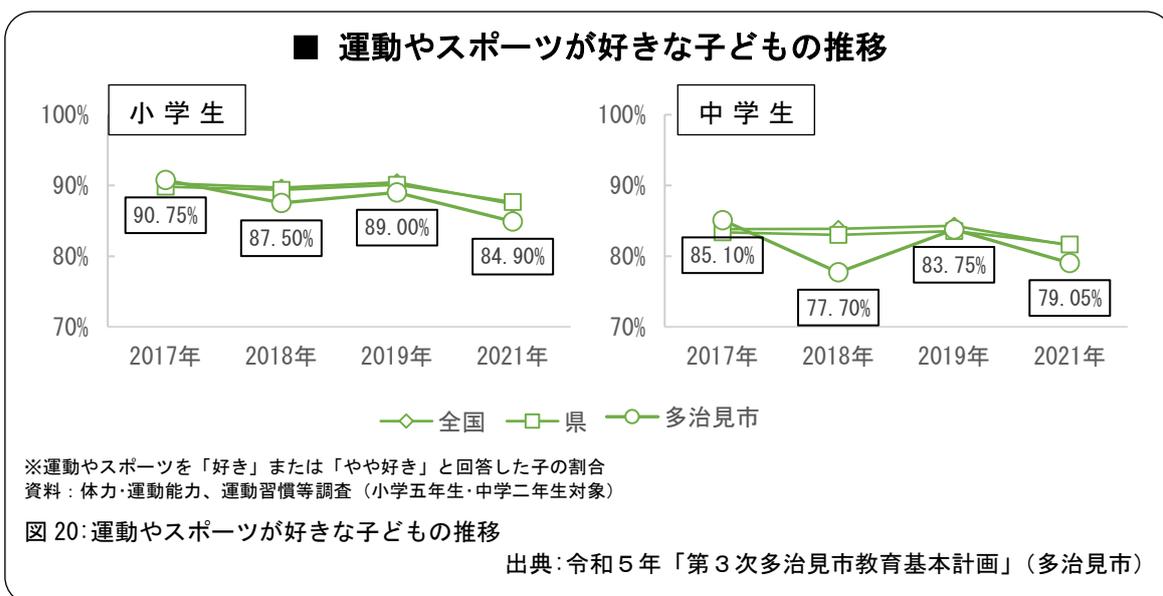
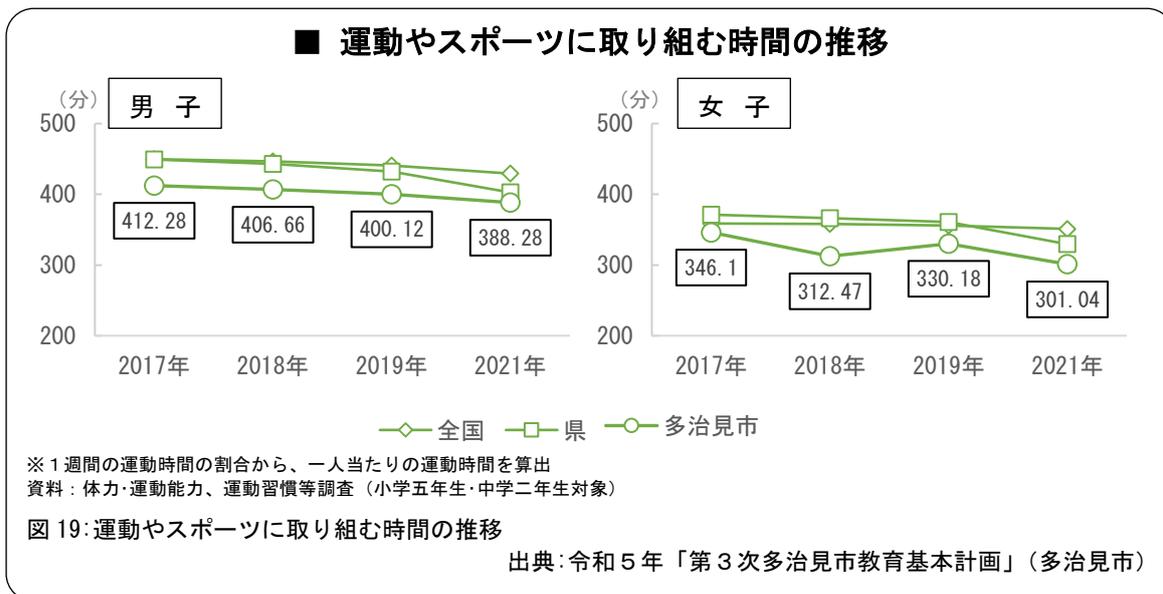
出典：令和3年「多治見市高齢者保健福祉計画2021」（多治見市）

7 子どもの健康

(1) 運動やスポーツの実施状況

体力・運動能力、運動習慣等調査より、子どもの運動やスポーツに取り組む時間は男女ともに減少傾向です。これは全国や県と同様の傾向ですが、多治見市は全国や県を下回る結果です。(図 19)

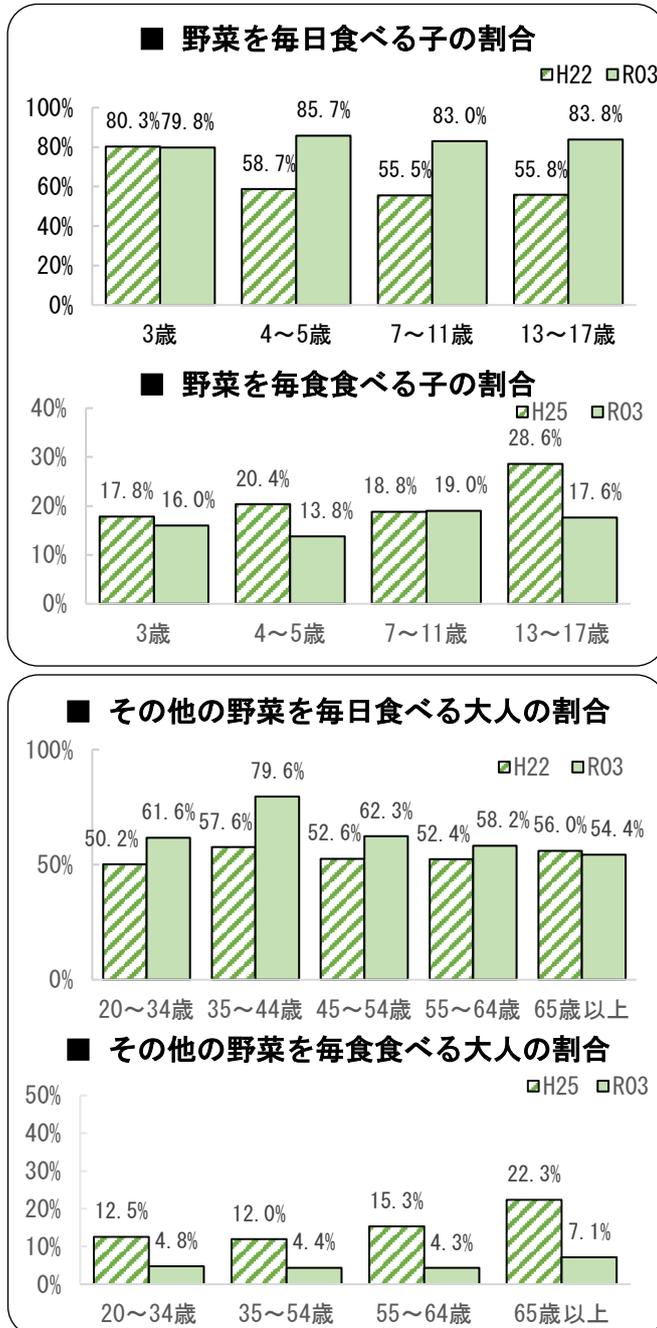
運動やスポーツが好きな子どもの割合については、小学生と中学生で比較すると、小学生の方が好きな子の割合が高い傾向にあります。(図 20)



8 健康調査結果からみる生活習慣の推移

多治見市の現状や課題を把握するため、無作為抽出した0～74歳までの市民約3,750人に対して令和3年に健康調査を実施しました。

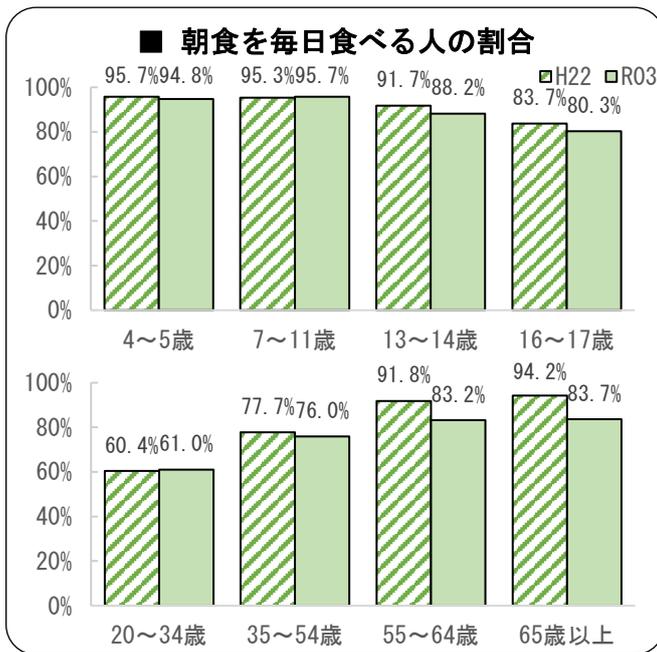
(1) 食生活分野



毎日、野菜を食べる子どもは、3歳のみ横ばいですが、それ以外のすべての年代で大きく増加しました。毎食、野菜を食べる子どもは、ほとんどの年代で減少し、特に13～17歳が大きく減少しました。

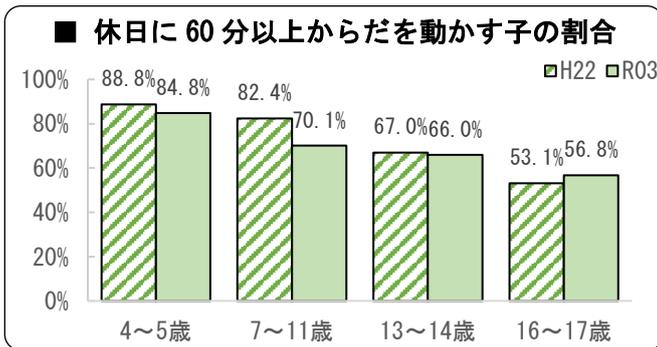
毎日、その他の野菜を食べる大人は、20～64歳で上昇し、65歳以上は減少したものの50%を上回る結果でした。

しかし毎食食べる大人の割合は、すべての年代において大きく減少しました。これは緑黄色野菜を食べる頻度についても同様の結果でした。

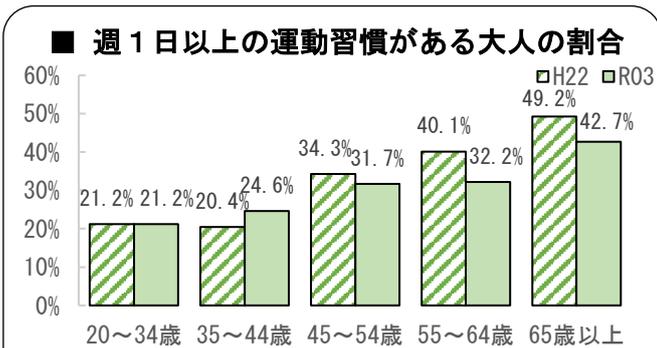


朝食を毎日食べる人の割合は、ほとんどの年代で減少しました。各年代のなかで20～34歳の摂取率が最も低く、詳細データを見ると、そのうち男性は約半数が摂取していないという結果でした。

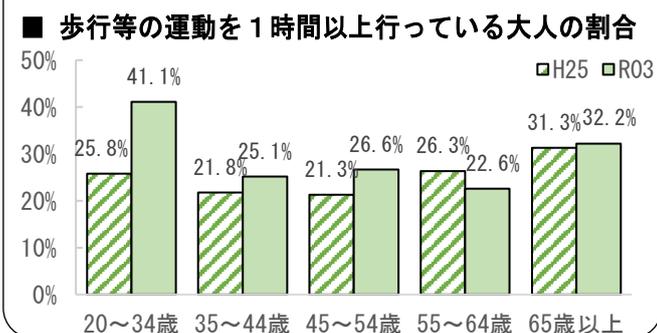
(2) 運動分野



休日に1日60分以上からだを動かす子の割合は、16～17歳を除き減少しました。特に7～11歳が8割以上から7割に減少しました。平日も同様に各年代減少傾向だが、16～17歳の年代のみ増加しました。

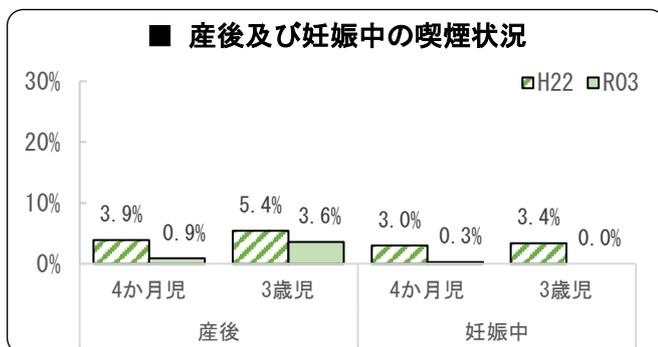


週1回以上の運動習慣を3か月以上継続している大人の割合は、10年を通して横ばい傾向でしたが、コロナ禍の影響で55歳以上では減少が明らかでした。



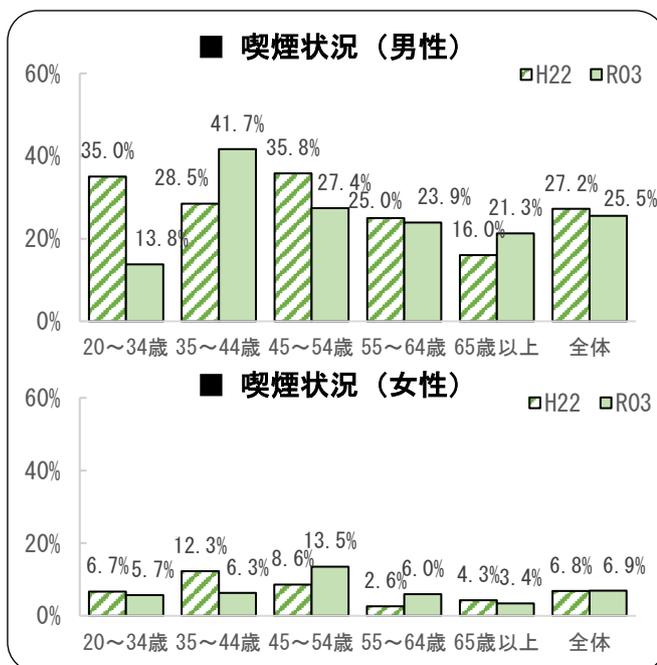
大人で、歩行等の身体活動を1日1時間以上実施している割合は、新型コロナウイルス感染症の流行下でも、ほとんどの年代で増加しました。

(3) 喫煙対策

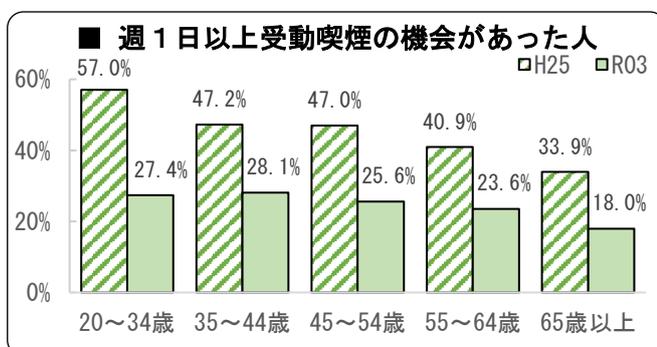


母親及び妊婦の喫煙状況は4か月児及び3歳児のいずれの母親も減少傾向です。

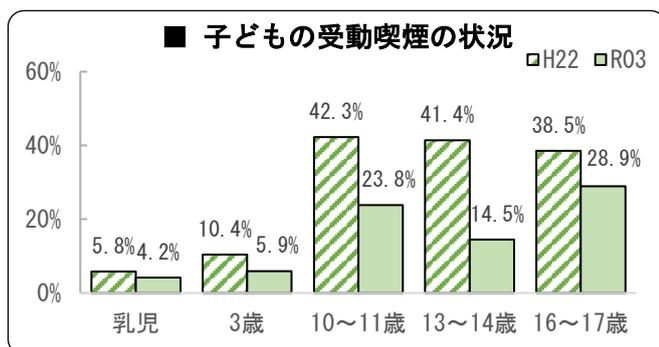
未成年者の喫煙状況は、「現在吸っている」は全年齢で0人、「過去に数回吸った」で1人（16～17歳男子）という結果でした。平成22年の調査結果（現在吸っている13人、過去に数回吸った3人）と比較し、大きく減少しました。



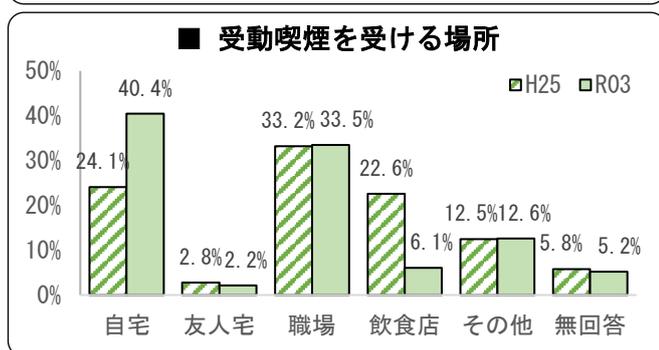
喫煙状況は、全体で男女ともに横ばいでした。全国調査（令和元年）の男性27.1%、女性7.8%と比較し低い割合です。



受動喫煙の機会について、大きく減少し、どの年代も30%を下回る結果でした。



子どもの受動喫煙について、どの年代も大きく減少しましたが、年齢が上がるにつれ増える傾向は継続しています。



受動喫煙を受けた場所は、「自宅」が増加し、「飲食店」が大きく減少しました。詳細データを見ると、男性では「職場」、女性では「自宅」が最も多くなっています。